

微生物由来の揮発性有機化合物による室内空気汚染の解明と 衛生居住環境の開発に関する研究

(研究期間：平成 1 2 年 ~ 1 3 年)

任期付研究員：朴 俊錫 (厚生労働省国立保健医療科学院)

総 評 (一定の成果が得られた研究であった)

本研究は、いわゆるシックハウス問題に関連して、微生物由来の揮発性有機化合物 (MVOCs) による臭気問題や健康への影響が注目されていることを受けて、MVOCs 発生と拡散防止の観点から、居住空間内における MVOCs 放散メカニズムと定性・定量特性に関する研究を行い、微生物の生体反応を含めた汚染のメカニズム、対策方法を解明することを目的とするものである。

本研究においては、MVOCs による室内空気汚染に関する検討が行われ、不適切管理によって空気調和設備内に付着した真菌から特有の MVOCs が発生することが示されるなど、社会的関心の高い課題について一定の研究成果が得られたことは評価できる。

なお、原因物質がいろいろと考えられる中で、MVOCs が他の要因と比較してどの程度の重みを持つかを明らかにすることが必要と考えられる。また、国民の関心の高い問題であるため、ある一側面が伝えられると相対比較なく不安を与える恐れがあるため、従来の化学物質 (ホルムアルデヒドなど) による健康障害との相対比較を行うなど、的確な対応策につながる取組を行い、本研究を更に発展させることが期待される。

他方、任期付研究員の活用効果については、緊急な社会的ニーズへの国立試験研究機関としての対応、若手研究者への支援、外国人 (アジア近隣諸国) の登用と国際交流強化などの面で十分に効果があったものと考えられる。また、質の高い研究成果を創出するため、研究所内外の研究者との共同研究が円滑に実施できるような環境を提供するなど、研究所の任期付研究員に対する支援も行われている。

以上により、本研究は、総合的に一定の成果が得られた研究であったと評価できる。

< 総合評価：b >

評価結果

総合	1.目標達成度	2.目標設定	3.研究成果			4.任期制	
			1.科学価値	2.科学的波及効果	3.情報発信	1.活用効果	2.機関支援
b	b	a	b	b	b	a	b